

令和5年10月1日現在の世帯数と人口

(千種区 18.18Km²)

学区名	世帯数	人 口			対前月増減	
		総数	男	女	世帯数	人口
1 千 種	5,836	9,102	4,600	4,502	20	15
2 千 石	4,180	6,918	3,474	3,444	6	8
3 内 山	5,752	7,966	4,279	3,687	12	14
4 大 和	3,617	6,708	3,318	3,390	△ 1	△ 11
5 上 野	7,493	15,447	7,542	7,905	△ 10	△ 11
6 高 見	7,326	13,210	6,304	6,906	△ 8	△ 5
7 春 岡	7,007	10,975	5,811	5,164	△ 10	△ 9
8 田 代	11,337	21,886	10,449	11,437	△ 16	△ 52
9 東 山	10,345	19,032	9,292	9,740	9	△ 1
10 見 付	4,570	8,474	4,267	4,207	19	0
11 星 ケ 丘	3,595	6,846	3,043	3,803	1	△ 2
12 自 由 ケ 丘	3,546	7,190	3,274	3,916	4	△ 4
13 富 士 見 台	6,492	15,086	6,851	8,235	△ 9	△ 15
14 宮 根	3,819	8,036	3,718	4,318	3	3
15 千 代 田 橋	3,737	8,225	3,865	4,360	5	△ 7
千 種 区 計	88,652	165,101	80,087	85,014	25	△ 77
R4.10.1	87,693	164,933	80,052	84,881	1	△ 92
対 前 年 比	959	168	35	133	24	15
名 古 屋 市	1,156,744	2,326,683	1,141,893	1,184,790	1,044	492
愛 知 県 (R5.9.1)	3,325,629	7,481,546	3,725,753	3,755,793	2,195	△ 104

前月中の増減内訳	自然動態			社会動態		
	出 生	死 亡	自然増減	転 入	転 出	社会増減
	70	131	△ 61	875	891	△ 16

【参考】

国勢調査千種区人口				これまでの最大人口と最小人口(千種区)	
昭和60年	163,762	平成17年	153,118	最大人口	173,598 (昭和50年2月1日)
平成2年	156,478	平成22年	160,015		
平成7年	148,847	平成27年	164,696	最小人口	146,727 (平成11年4月1日)
平成12年	148,537	令和2年	165,245		

注) 学区別の世帯数と人口は、令和2年国勢調査結果の本市独自集計速報値であり、後日総務省から公表される数値と異なる場合があります。

千種区の年齢各歳別人口構成と年齢3区分別人口の推移

今回は令和4年愛知県人口動向調査結果に基づいて、千種区の年齢各歳別人口構成と、年齢3区分別人口の推移を見ていきます。

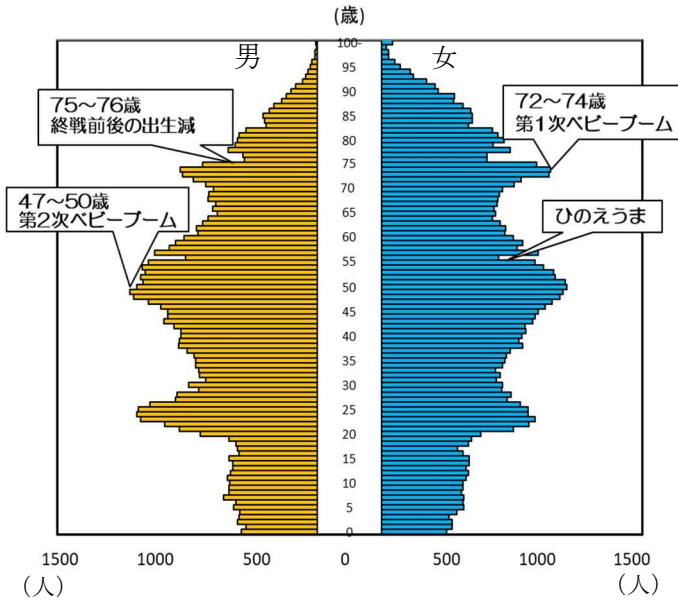
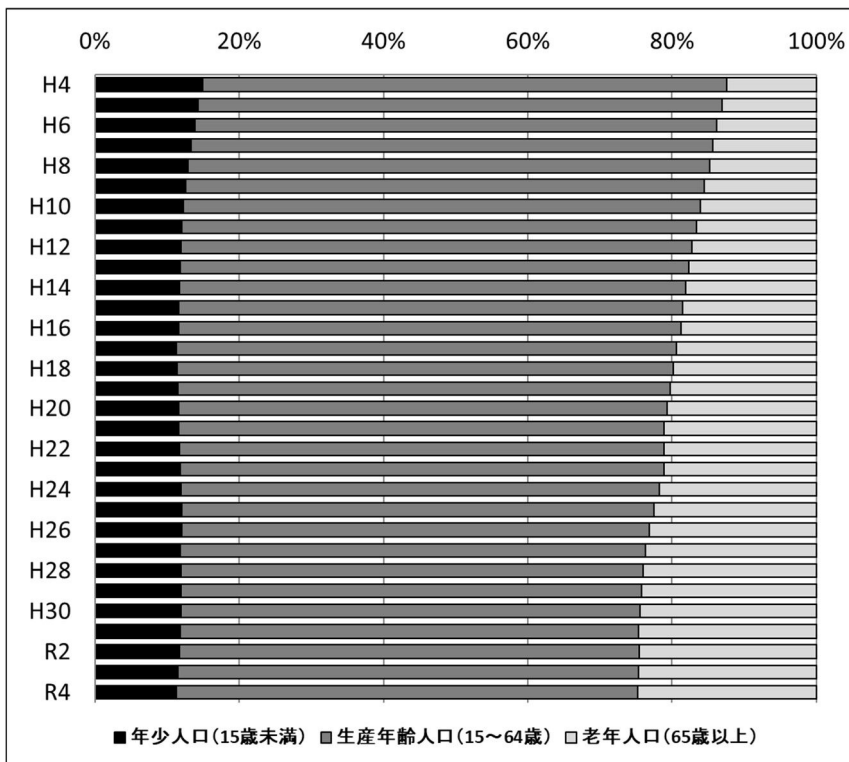


図 1:千種区の年齢各歳別人口構成（令和4年10月1日現在）

令和4年10月1日現在の千種区の人口を年齢各歳別人口構成で見ると、75～76歳の年代は第二次世界大戦の影響によって、また55歳は「ひのえうま」の影響により人口が落ち込んでいます。

また、72～74歳は第1次ベビーブームの影響によって、47～50歳は第2次ベビーブームの影響によって大幅な出生増となっています。ここまでの傾向は、全国と同様の「ひょうたん型」の人口ピラミッドです。千種区の特徴として20～25歳の人口が多く占めています。これは、千種区に複数の大学が存在していることが影響していると考えられます。



平成4年から令和4年の各年10月1日現在の年齢3区分人口の割合の推移を見てみます。平成4年と令和4年を比較してみると、年少人口（15歳未満）の割合は3.5ポイント、生産年齢人口（15～64歳）の割合は8.3ポイント減少したのに対し、老年人口（65歳以上）の3割合は12.5ポイント増加しました。

詳しく見てみると、年少人口の割合は平成12年まで減少傾向でしたが、以降は横ばいとなっています。生産年齢人口の割合は平成7年をピークに減少。老年人口の割合は増加を続けています。

図 2: 千種区の年齢3区分人口の割合の推移（各年10月1日現在）